大宮通信

大宮中学校　学校だより
第116号　2026.5.11

想像力を持つということ

今日は大阪市内の小中学校では「いじめ（いのち）について考える日」とされています。全校朝会では、「全国中学生人権作文コンテスト」の内閣総理大臣賞の作文を紹介して、いじめについて考えました。

友だち数人とたわいのない話で盛り上がっているうちに、その場にいない子の話になり、どんどんエスカレートして悪口に発展してしまった。そのことを本人が知るところとなり、その子を深く傷つけてしまった、という内容の作文でした。

作文を書いた生徒は次のように考えています。ぜひ「私ごと」としてとらえ、想像力を働かせて読んでみてください。

「ばれなければいい」という考えのもと無責任な発言をし、それを共有することで生まれる連帯感。そんなゆがんだ仲間意識は実は「いじめ」なのだということにこの時の私は気づいていなかった。

集団生活の中では、日々いろんなことがある。当然自分と合わないなと感じる人も出てくるし、考え方の違いや意見が行き違うこともある。そんな不満がつい悪口という形で出てしまうことは、正直誰にでもあるのではないかと思う。しかし、私たちが間違っていたのは、一人の子を「ねた」にして、「悪口」という行為を楽しんでしまったこと。そして、もし自分が「悪口」を言われている側だったらという想像力が欠けていたことだ。本人のいないところでの中傷は「いじめ」だ。（中略）

一度吐いてしまった言葉は二度と取り消すことはできない。深く反省し、友人にも謝罪をした。友人は、謝罪を受け入れてくれたが、友人との関係は元どおりというわけにはいかず、小さなしこりが残ったままだ。（中略）

あの日から一年。傷つけた友人と何のわだかまりもなく会話ができるようになるまでの時間は、私自身の弱い部分や課題と向き合う時間だと思っている。この後悔を二度と繰り返さないよう、自分の言葉には責任を持ち、相手の立場に立って考えられる人になりたいと強く思っている。

おめでとう！

○ ソフトテニス部　大阪市春季総体２ブロック予選
団体準優勝 、個人戦第3位 ３年生